# 教育実習を終えて

日本語日本文学科　４回生
阿　部　加　奈

私は母校で３週間の教育実習をさせていただきました。あっという間の３週間でしたが、現場で働く先生方の姿を見て、また、実際に生徒の前で授業をして、課題が多く見つかったとても有意義なものとなりました。

私は、国語が得意な生徒も苦手な生徒も全員が参加する生徒主体の授業を目指しました。そのために、机間指導を充実させたり、話し合い活動を多く取り入れました。机間指導をしっかりと行うことで、生徒一人一人の理解度や、どこでつまづいているかを把握することができ、個別指導の大切さを学ぶことができました。しかし、机間指導を細やかに行えば行うほど時間はかかり、はやく課題が解決できた生徒が時間を持て余すという状況が生じました。机間指導を充実させることで、すべての生徒にしっかりと学んでほしい、しかし、そうすることによって時間が余り、その生徒にとって貴重な時間が無駄になってしまうという葛藤が常にありました。理解度の異なる数十人の生徒を相手に一斉授業をする難しさを感じ、また、一斉指導と個別指導のバランス、授業テンポが課題として残りました。

また、HRなど生徒の前で話をする際、伝わりやすい話し方、興味を引き付ける話し方ができず、悔しい思いを何度もしました。特に連絡事項がない際、話すことが見つからず、先生に相談すると「今日は給食の牛乳パックがとても綺麗に片付けられていたので、それを褒めてはどうか」と言われました。私はそのことに気が付いておらず、生徒の状況など、周りのことに意識が十分に向けることができていないなと痛感しました。多感であり、これからの生き方に大きく影響する思春期を過ごす中学生にとって教員のことばの影響力は大きく、伝え方ひとつとっても重要だと思います。だからこそ、常に生徒の状況や周りにアンテナを張っておくこと、伝わりやすく、興味を引き付ける話し方を身に着ける必要性を強く感じました。

この３週間では授業やHRなどの生徒指導面などで、うまくできなかったことが多く、悔しいことがたくさんありました。しかし、それで嫌になったことはなく、むしろその悔しさが私の原動力となっていました。私は、この春から長年の夢であった、中学校の国語の教員として教壇に立ちます。教育実習で見つかった課題はまだまだ改善の余地があると思います。今の、もっともっと授業力や生徒指導力を身に着けていきたい、多くの先生方から１つでも多くのことを学び、自分の力にしていきたいという気持ちをいつまでも忘れず、生徒とともに学び続け、成長していける教員になることができるよう努力を続けていきたいです。

# 教育実習を終えて

英語英米文学科　４回生
村　卸　加　菜

長いようで短かった３週間の教育実習を終えて、この３週間、いろいろな視点からたくさんのことを経験できたと感じています。今までの人生で、こんなに早く過ぎ去って、たくさんのことに刺激され、充実した３週間は経験したことがありませんでした。

実習の流れとしては、はじめの方は先生方の授業見学をさせていただき、最後の週で授業をやらせていただきました。授業の形態は、教科担任の先生がやっておられる授業をベースに作り、内容は、授業の見学で学んだことをもとに空き時間で十分に教材を研究する時間が取れていたので、あまり不安はなく緊張もせずに始まりました。しかし、実際に授業をしてみると、生徒の様子が見えておらず、反省点もたくさんありました。準備、練習の必要性を改めて感じました。

また、私が実習校に通っていたころは、親元を離れ学生寮で生活していたのですが、今回の教育実習中もその寮で過ごさせていただきました。下宿とは違い、寮は共同生活です。実習中、朝起きたところから夜寝るまで、生徒を見ることができ、その反面ずっと生徒に見られている状態でした。正直しんどいなと思うこともありましたが、逆になかなか体験できるものでもないので、貴重な経験をさせていただいたと思っています。実習を終え、寮や学校を出る頃には、たくさんの生徒と交流を深めることができていました。

私はもともと慣れないことをすることや子供と接することが苦手なので、教員免許を取ると決めたときから、教育実習が嫌で仕方ありませんでした。しかし、実際始まってみると毎日何かしら刺激をもらい、少しではありますが成長していけたと実感しています。それどころか、３週間の教育実習が終わる頃にはもっといたかったなと思うほどでした。これまでの人生で経験してきた実習の中で一番たくさんのことを学び、楽しく実習させていただいたなと感じています。

具体的に、特に驚き印象に残ったことは、先生方が生徒と、思っていた以上に向き合っておられたことです。３週間のうちに、少なくとも１回ずつはそれぞれの生徒の名前を言われており、学年が違う先生や教頭先生などにも、一人ひとりの生徒の様子などを共有しておられて、一人ひとりとしっかり向き合っておられる様子が見られました。自分が生徒だったときには気づくことができませんでしたが、感じていた以上に一人ひとりを見て、向き合ってくださっていたのだなと感じました。職員室で先生方と話す機会が多かったのですが、「そんなことまで？」と思うようなことも把握しておられて驚きました。しっかり向き合っておられるからこそのことだと思います。このことは、教師になれば当たり前のことと思われるかもしれませんが、なかなか完璧に全てできる人は少ないと思います。幸運なことに、私は今回の実習でこのような先生たちの姿勢に気づかせていただいたので、もし将来教師になったときには、今回の実習で学んだことをフル活用して「いい先生」になれたらなと思います。この度、実習を受け入れてくださった先生方、授業などで出会えた生徒達に感謝の気持ちでいっぱいです。

# 教育実習を終えて

神戸国際教養学科　４回生
山　口　　愛

母校の中学校で３週間の教育実習をさせていただきました。初めの１週間は、大学での生活とのギャップが強くて、毎日過ごすだけでとても疲れます。朝６時に起きるのに慣れることで精一杯でした。２週目は、生徒達とも仲良くなり、“教師”という仕事は本当に素敵だと思うシーンが何度もありました。クラスみんなの名前を覚え、話しをすることができました。全員とても素直で優しく温かい。私は学校が大好きなので、できる限り、教室や廊下など、生徒達と過ごせるように心掛けました。他のクラスの生徒もたくさん話しかけてくれて、とても楽しい時間でした。私が毎日を笑顔で過ごせたのは確実に可愛い生徒達のおかげだと思います。最後の３週間目は、授業実践が始まりました。４クラスで授業を行い、４パターンの指導案を作成しました。授業は全部で16回行いました。良い授業をするためにやりたいと思うことが山のようにあり、緊張や恐怖で夜は眠れませんでした。授業では反省点ばかり。大きく２つ。１つは何度も生徒を混乱させてしまったこと。どれだけ周りが見えていなかったか、その時、自分のことで精一杯だったのか、振り返るときりがありません。もう１つは、私の英語力がとても低いこと。新学習指導要領では英語で授業を進めることを求められるので、Classroom Englishを多く使えるようにして挑むべきだと思いました。授業することの難しさは計り知れませんでした。

全体としての感想は、充実していたということです。短くもなければ長くもありません。ただ、３週間とは思えないくらいの量の学びを得ることができました。

日々の学活や道徳の時間、学年集会、様々な場面で、先生は生徒達にメッセージを伝えていました。伝わったことが１番目に見えて分かったのが、掃除の時間。学年集会の先生から話があったその日から生徒達の動きは明らかに変わりました。「今日は真面目に掃除した」と他のクラスの女子が話してくれました。「案外掃除楽しいやろ？」と言うと、うん！と言っていたので、先生の力はすごいと思いました。難しい話を難しく説明することは誰でもできる。どうやって簡単に話すかどうか。先生の伝えたいことは的確で、生徒をやる気にさせていました。そのためには、自分の憧れる人を参考にすると良いと教えてくださいました。先生の憧れは島田紳助さんだとおっしゃっていました。バラエティーでゲスト全員がカメラに写るように司会をする。全員に気を配る、周りを見る力は教師にもとても大切です。それから、先生は生徒の笑いも押えていました。すごすぎます。教師という仕事の大変さもよく分かり、同じ24時間で生きているとは思えない程でした。だけど、それ以上に得られる楽しさも、生徒と関わることで、たくさん分かりました。なかなか自分の思うようにいくことはなかったけれど、３週間でできることは全部したので達成感はあります。多くを吸収できました。

# 教育実習を終えて

史学科　４回生
松　田　亜佑美

５月28日から６月15日までの３週間、母校の中学校で教育実習をさせていただきました。実際の教育現場で実習させていただくとなると、もちろん期待はありましたが、不安や緊張が大きかったです。しかし思い返してみると、苦しかったことよりも、学んだことや嬉しかったことばかりの充実した３週間でした。

私の配属クラスは１年３組で、授業は１年生を担当させていただきました。１週目は、指導教員や他の社会科の先生の授業を見学させていただき、授業の進め方や生徒の興味の引き出し方を学ばせていただきました。授業は２週目からの予定でしたが、急遽変更があり１週目の木曜日から授業になりました。事前指導で範囲を聞いていたので、あらかじめ教材研究をしていましたが、実際授業をしてみると教材研究不足を痛感しました。私たちの中では当たり前だと思っていることも生徒にとってはわからないこともあるので、細かく説明しなければならないし、発問１つにしても扱う資料や言葉の言い回しで伝わらないこともあり大変でした。そして、そのせいでうまく授業を進行できなかったことがありました。私は改善して次につなげることができますが、生徒にとっては１回きりの授業なので私の教材研究不足でうまくいかなかったことを後悔しています。授業では１時間に１回はグループワークを取り入れるようにしていました。生徒は「社会の授業いつも眠いけど、先生の授業は考える時間があって楽しい」と言ってくれ、アクティブラーニングの導入が言われてる中で、生徒にとってもアクティブラーニングは楽しい時間なんだということを実感したとともに、私の授業を楽しいと言ってくれたことがすごく励みになりました。

授業以外の時間は、指導教員や社会科の先生の授業を見に行くことはもちろん、他科目の授業を見学させてもらったり、他の実習生の授業を見に行きました。空き時間があれば教材研究をしたい気持ちもありましたが、よっぽどその時間でしなければいけないとき以外は、様々な授業に行きました。クラスによって雰囲気が違うので、どのように授業を行っているのかや、アクティブラーニングの取り入れ方を学ばせていただきました。放課後も指導教員との打ち合わせがない限り、部活に行き練習に参加させていただきました。下校時間後や家に帰ってから教材研究をしたり、指導案作成をしていたので、睡眠時間が少なく疲労もありました。しかし、教師になってからではできないこと、学べないことであるという思いで過ごしていました。最終日には、ＨＲ学級の生徒から色紙とＨＲ学級以外の生徒からも手紙や嬉しい言葉をたくさんもらうことができました。

３週間という短い時間ではありましたが、教師の大変さや凄さを感じることができ、丁寧に指導してくださった指導教員の方々、周りの先生方、たくさんの声掛けをしてくれた生徒たち、そして共に頑張った実習生の支えがあって無事に実習を終えることができました。今年度の教員採用試験は最終で落ちてしまいましたが、講師として働かせていただけるところがあれば働き、来年度の教員採用試験に挑戦したいと思っています。

# 教育実習を終えて

教育学科　３回生
岸　本　　彩

教育実習を終えて、私が一番に得たものは「自信」です。教育実習へ行く前は、自分が児童の前に立ち、45分間授業を展開する姿が想像できず、不安でいっぱいでした。しかし、授業実習を一つ、また一つと終える度に先生から評価していただき、成長を感じるとともに、その成長が「自信」へとつながっているように感じました。

私が教育実習を通して学んだことは３つあります。

まず一つ目は、児童と関わり、理解を深めることの大切さです。私は、教育実習へ行く上で、目標を立てていたことがあります。それは、子どもと信頼関係を築くことです。笑顔を絶やさず、一人ひとりの気持ちに寄り添えるよう全員と関わることを心がけていました。いろいろな先生、いろいろな教科の参観をする中で、授業も、子どもたちとコミュニケーションをとりながら進めることが大事であると実感しました。子どもたちのつぶやきや気付きを軸に学べるよう、教師は支援していく必要がありますが、そこでは、教師と児童の間で思ったことを素直に言える関係が土台となっていると考えます。だからこそ、子どもたちとの日頃の関わりの積み重ねは欠かせないものであり、教師にとっては子どもと同じ目線に立つこと、児童ができたことを一緒になって喜んであげられる感覚がとても大切になると教えていただきました。また、先生が「先生の頑張りに子どもたちが応えていたね。先生の一生懸命さは必ず伝わるんだよ。」と言ってくださったことが嬉しく、今も心に残っています。自分自身が強い思いをもって、子どもたちと向き合うことで信頼関係が築けていくのだと学ぶことができました。

二つ目は、教師としての心構えや姿勢です。実習を通して感じたことは、教師の仕事は数え切れないほどたくさんあり本当に大変だということです。限られた時間の中で何をどのようにやっていくか、時間の使い方も工夫されていることを知りました。また、先生一人ひとりには大切にしている思いがあり、何気ない一言や行動にも意図があるということを教えていただきました。特に、学級経営の仕方は現場だからこそ吸収できるものが多く、貴重な学びとなりました。学級のルールや教師自身が目指す学級像を明確にしておくことは、子どもたちを育てていく上で非常に大切です。その中で、特に、自分の思いを自分の言葉で表すことができる雰囲気づくりが重要であると学びました。また、教師が子どもを信じることを忘れてはいけないと教えていただきました。

最後に、現場の先生方から、向上心を持ち行動していく大切さを学びました。心持ちや捉え方一つで受ける印象は大きく変わります。嫌だな、辛いなと思いながらやるのではなく、自分のための貴重な機会だと思いこなすと、見ている側の印象も違ってくると思います。私は、研究授業を通して、失敗をするからこそ学べる事があると気付きました。また、この気付きを活かし、改善すると素晴らしいものが生まれると実感させていただきました。なので、今後は、向上心を持ち、失敗を恐れず挑戦していく姿勢を忘れずにあらゆる試練にも立ち向かっていきたいと思います。

長いようで短い４週間。本当に毎日小学校へ行くのが楽しみで、人生で一番と言っても過言ではないほど充実した日々を送ることができました。まだまだ未熟な私を「先生」として慕い、全力で向き合ってくれた子どもたち。日々、お忙しい中、私のために多大なる時間を費やし、授業技術や教師としてのノウハウ等たくさんのことを指導し、支えてくださりながら、教師という仕事の魅力ややり甲斐を教えてくださった担当の先生。温かい言葉や有難い助言をくださり、応援してくださった全ての先生方。私は、この教育実習での出会いに感謝し、一生大切にしていきたいと心から思います。また、教育実習を終えて、やっぱり教師になりたいという気持ちを強く持ち直すことができました。「学校の先生になるのを応援しているよ！」という子どもたちのメッセージや、「２年後、一緒に現場で早く働きたいね」とおっしゃってくださった先生のお言葉を力に、一生懸命勉強して、絶対に夢を叶えたいと思います。

# 教育実習を終えて

教育学科　３回生
増　田　莉　花

私は母校である小学校で、４週間６年生のクラスで教育実習をさせていただきました。教育実習に行く前は、児童たちと仲良くできるかなど、様々な不安がありました。しかし、いざ実習が始まると、そんな不安が吹き飛ぶくらい楽しいことや嬉しいことばかりの充実した４週間でした。その中でも私が学んだことは２つあります。

１つ目は、授業中の確認作業の大切さです。34 人いるクラスですべての児童を授業に取り組ませるためには、まず、授業に遅れを取らせないことです。確認作業をしないと、児童が今どこをしているのか、何をこれからするのか分からなくなってしまい、授業が嫌になってしまいます。そのため、確認作業を行うことで把握することができ、授業に取り組みやすくなります。私が授業実習を終えた後、児童から「楽しかった」「明日も授業して」と声をかけてもらえました。また、担当教員には「児童のみんなが授業楽しかったっていうのは、しっかり確認作業ができていたからだよ。」とお褒めの言葉をいただけたので嬉しかったです。授業の中で確認の作業を行うことは、授業に取り組みやすくなるとともに、児童が授業を楽しめるということに気付くことができました。

２つ目は、授業の発問の大切さです。教育実習に行く前は、大学生の前でしか模擬授業を行っていませんでした。そのため、教師役の私が抽象的な発問しても、児童役の大学生は私の意図を掴んで活動をしてくれました。しかし、教育実習では、児童に「考えましょう。」という指示を出しても、私の意図に沿った活動に取り組みをする児童は、一握りしかいませんでした。このことについて担当の先生は、「考えましょう。」ではなく、「３つ考えましょう。」や「グループで考えましょう。」など具体的な指示を示すことで、一生懸命考える児童が激増すると教えてくださいました。その反省を踏まえて授業を行うと、前回の授業とはまるで変わって、児童が主体的に活動に取り組むようになりました。発問を少し具体的に言い換えるだけで、活動に取り組みやすくなるのだと実感しました。

教育実習中は、台風による臨時休校のため、児童が登校しない日が２日あったり、修学旅行で児童が学校にいなかったり、朝の会の前に児童が怪我をする生徒指導事案があったりと、実習生が普通ではあまり経験することがないような実習になったと担当教員の方がおっしゃっていました。臨時休校の日は、普段見ることができない業務を見せていただき、貴重な経験となりました。また、教師の仕事量は莫大で大変であると改めて感じました。授業準備だけではなく、業務、宿題チェックなどたくさんありますが、担当教員は、その仕事量の中でも児童一人ひとりと関わる時間を確保してらっしゃって、すごいなと思いました。私も児童とたくさん関わり、一人ひとりをしっかり見ることのできる教師になりたいです。

# 教育実習を終えて

教育学科　３回生
清　原　梨　央

私は、母校の徳島県の小学校で実習をさせていただきました。実習に行くまでは、楽しみな気持ちと不安な気持ちがありましたが、楽しく充実した４週間を過ごすことができました。「積極的に学び、楽しい授業をする」という目標を意識して何事にも取り組みました。その中で学んだことが３点あります。

１つ目は、児童と授業についてです。児童と先生との距離が近く、発問すると元気よく手を挙げて発表したり、わからないことがあると、積極的に質問をしたりしている姿がとても印象的でした。「楽しい授業」を目標に児童主体の指導案を考えていくと、たくさんの先生方にアドバイスをいただきました。実際に授業を行ってみると、観察の時には気づくことができなかった先生の指導の工夫や配慮にも気づくことができました。また、指導案や学校の模擬授業のようにはいかないことばかりでした。思っていた通りに行くことはあまりありませんでしたが、子どもたちとの関係性が深まるにつれ授業が良くなっていくのを感じ、私自身も楽しみながら授業をすることがでました。児童が「先生の授業分かりやすい」「楽しかった」「毎日楽しみ」と言ってくれたときは、これ以上ないうれしい気持ちで心がいっぱいになり、教師のやりがいを感じられた瞬間でした。

２つ目は、チーム学校としての先生同士の関係性です。４年生は音楽会があり、休み時間にも練習を行っていました。休み時間にもかかわらず、各学年の先生方が様子を見に来られていたり、担当ではない学年のプリントを作ったりと、先生方の協力がたくさん見られました。職員室での会話も多く、暖かい雰囲気が感じられました。

３つ目は、地域と学校の連帯の素晴らしさです。主体的、対話的、深い学びのアクティブラーニングを行えるように、先生方が細かいところまで話し会い意見交換を行っていました。特に実習校では、総合.生活の授業にとても力いれていました。３年生では「劇」、４年生では「那賀川やごみについて」、６年生では「大野のＰＲ動画を作ろう」をテーマにし、地域の人の力を借りながら地域をよりよくするために、児童が進んで考え、生き生きしながら学習ができていました。私は３年生が地域のお祭りで「劇」を披露するところを見学させていただきました。地域の人はとても喜んでいて、児童もとてもいい笑顔をしている様子を見することができ、学校と地域が一つになる素晴らしさを感じることができました。また、４年生では、河川事務所の方々に協力をいただきながら、那賀川の生き物や水質を考える中で、児童が地元に対する愛着や環境に気をつけようとする姿に、とても成長を感じました。そのような貴重な場に、私自身も児童と一緒に体験したことで、実際に体験することや地域との連帯の大切さを感じることができ、とても学びになりました。

実習に参加して、「小学校の先生になりたい」という気持ちがとても膨らみました。これからは大学で夢を叶えることができるよう、一層努力をしていきたいと思います。

# 教育実習を終えて

教育学科　３回生
嵐　　みのり

私の人生で一度きりの教育実習は毎日が実りあり、忘れられないほど有意義な４週間でした。学校やクラス、指導教員や様々な環境にも恵まれ、絶対先生になりたいと思った実習でした。

私がそう強く思った理由の１つは教師という職業のやりがいを感じることができたからです。きっと、私は実習生なので教師に仕事の何分の１ほどしかしていないのだろうけど、それでも身に余るほどやりがいを感じました。私が実習をさせていただいた時、実習校は音楽会まであと１か月をきっていました。毎朝音楽係の指示で歌やリコーダーを練習していましたが、歌詞が曖昧だったり綺麗に音が出なかったりして完璧ではありませんでした。そんな時、リコーダーのテストがありました。合格できるまで何回もやり直しというルールのもと行われたテストでは、休み時間や家で自分のできないところを何回も練習する子や、合格した子がまだの子にアドバイスする姿等児童の様々な面が見れました。その中で私が教師という職業のやりがいを感じた出来事が２つあります。

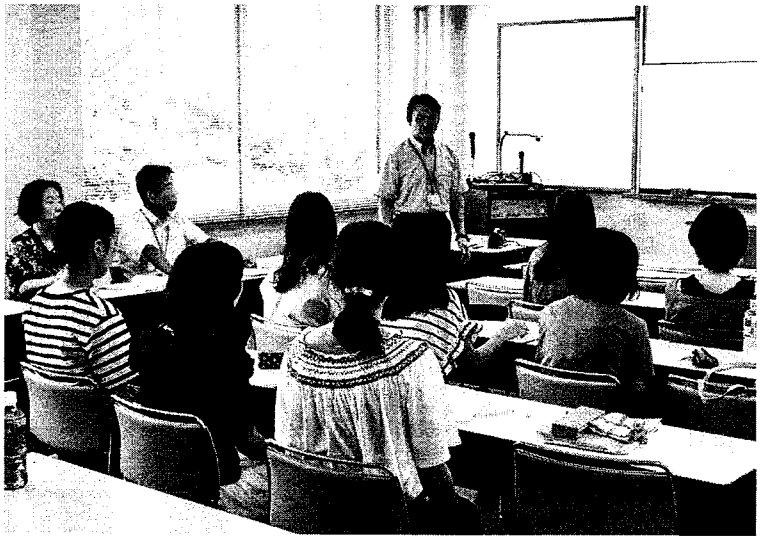
１つは「みのり先生、聴いてください！」と何回も挑戦してきてくれた子についてです。その子はあるフレーズの決まった音がいつも綺麗に出ませんでした。そこだけ吹けるようになれば合格というあと１歩のところで苦戦していました。私はその子のリコーダーを聴き、どうすれば上達するかを考え、その子が聴かせに来てくれた分アドバイスを何回もしました。すると、その子は聴かせてくれるたびにどんどん吹けるようになっていき、見事合格しました。自分のアドバイスが、上達する１つの手掛かりになったこと、短期間で子どもの身近な成長を感じることができたことがとても嬉しかったです。

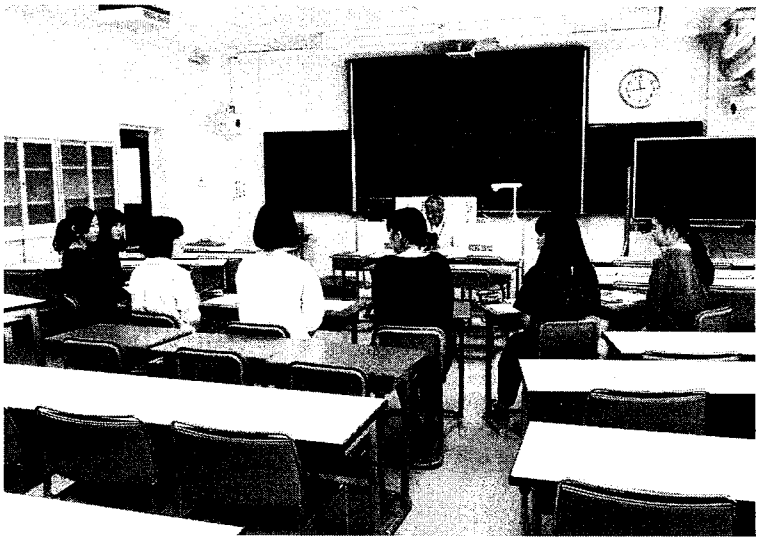
もう１つはクラスで最後の子が合格した時のことです。その子が合格したと知るとクラス全体が「やった！」「おめでとう！」「頑張ったね！」等の言葉が飛び交い、喜びを分かち合いました。子どもたちと喜びや悲しみを共有する楽しさ、そして大切さを味わうことができました。その他にも私が感じたやりがいや教師になりたいと思わされた出来事は語りきれないぐらいたくさんあります。どれも私の夢への原動力になるものばかりでした。特に、実習最終日のことは忘れません。児童がそれぞれ考えて、私をどう足止めしようか、どんな飾りつけにしようか、どんなゲームをしようか、どんなプレゼントをあげようか…一人ひとりが私のために一生懸命考えて準備してくれたことが伝わるお別れ会でした。児童の考えの深さや思いやりの心に感銘を受けました。

もちろん、実習は楽しいことばかりではなく、失敗や躓いたこともありました。そんな時、周りの先生方は私にお褒めの言葉がけやアドバイスをしてくださいました。私はこんな私の褒めポイントを見つけていただいて嬉しかったし、自信に繋がりました。私が先生にしてもらったように子どもたちの良いところをたくさん見つけて褒めてあげたいなと思いました。そして時には助言をしてその子の背中を押したり、可能性を引き出してあげられるような存在になりたいと思いました。また、心が沈んでしまったり不安になることもありました。でも教室に入って子どもたちの顔を見ると、魔法のようにどんどん元気が出てきました。子どものパワーってすごいなと思った瞬間でもあり、私も子ども

たちのために何かしたいと思った瞬間でもありました。

私は「一人ひとりに寄り添える教師」になることが夢です。実習校で過ごした４週間とその時に関わってくださった皆さんとの思い出を胸に、これからも夢に向かって努力し続けていきたいです。





# 幼稚園教育実習を終えて

教育学科　４回生
南　条　咲　希

私は、４回生の９月に約１ヶ月間、自分が通っていた幼稚園で教育実習をさせて頂きました。９月の実習まで少しでも子どもたちに慣れるため、５月から週に１度ボランティアとして園に通いました。

私が通っていた当時とは、教育方針が随分変わっていました。現在は、読み書き計算、体操、音楽等を毎日行い、“やりたい気持ちを高める教育”ヨコミネ式教育法（ＹＹプロジェクト）を取り入れていました。正直、毎日こんなにたくさんのことが子どもたちにできるのかなと疑問に思っていましたが、子どもたちの様子を見ていると、得意不得意はあっても、楽しそうに一生懸命取り組んでいました。

「できている子どもを褒めることで、褒められた子どもは自信に繋がり、他の子どもも私も頑張ろうという意欲に繋がるよ。」と先生から教えて頂きました。子どもたちは自分で気付いて行動したり、他の子のしていることを真似して、自分もやってみようと挑戦してみたりと、声かけの仕方一つで子どもたちの動きが変わってくるのだと感じました。

実習終了後に行われた運動会にも参加させて頂きました。実習中、毎日運動会の練習をしていた子どもたちを見ていたので、運動会の様子を見たときは感慨深いものがありました。

先生方は常に子どもたちの安全に配慮し、広い視野をもって全体を見渡しながら行動していらっしゃいました。このように、先を見通して状況に合わせて行動する難しさがありますが、子どもたちと一緒に成長できるこの仕事は、やはり素敵です。以前、小学校の恩師が、「人を育てる仕事はやりがいがあります。」とおっしゃっていました。

実習前は、楽しみよりも不安な気持ちの方が大きかったのですが、一人でも多くの子どもたちの笑顔を見ることが出来るよう、まず私自身がいつも笑顔で子どもたちと接するように心がけました。ボランティアをしていたこともあり、他のクラスの子どもたちとも仲良くなりました。そして、子どもたちとの信頼関係も徐々に深まり、実習を終える頃には不安な気持ちはなくなっていました。実習最終日には園長先生から、「南条先生のその素敵な笑顔はきっと子どもたちにも伝わっているよ。大変だったと思うけど、１ヶ月間お疲れ様でした。」とお褒めの言葉を頂きました。

今回の実習で学んだことを無駄にしないように、今後の仕事に繋げていきたいと思います。

この実習を行うにあたって応援して下さった先生方をはじめ、家族や周りの友達に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

# 幼稚園教育実習を終えて

教育学科　４回生
矢　野　鈴　佳

私は、大学の附属幼稚園で４歳時のクラスで実習をさせて頂きました。１年間を通して学ばせて頂き、実り多い１年となりました。この実習を通して自分がどんな保育士になりたいのか、今まで曖昧だったものが明確になってきたように思います。上手くいかないことや、思い悩むこともありましたが、園の先生方や友達に支えられながら、自分なりに全力で子ども達と向き合うように努力しました。

多くのことを学んだ実習でしたが、その中でも私が入らせて頂いたクラスの先生は、保育を行う上で「繋がり」を大切にされていました。日々の実習を通して、繋がりのある保育とはどのようなものなのかを学ばせて頂きました。先生は、子どもが興味をもっていることを敏感に感じ取り、それらを生活や遊びに取り入れていました。活動を行ってそこで終わりにするのではなく、その活動が次の活動を生み出し、さらに子どもの興味や関心を深めていくような保育を行っていました。保育に繋がりをもたせることで、子どもは興味・関心を深めていき、「もっと知りたい」「やってみたい」というような自発的な活動を生み出し、さらなる学びや、新たな興味・関心へと繋がっていくと学びました。私も子どもが楽しいと感じていることに気付いて遊びに取り入れていけるよう保育を行っていきたいと思います。また、保育室の環境も工夫されていて、子どもが興味をもっているものを目に付きやすい場所に置いたり、壁に写真を貼ったりしていました。環境構成をよく考えて行うことで、子どもは自然と様々な事物に対して、興味を広げていくのだと学びました。

そして、１年間子ども達の普段の幼稚園生活はもちろん、様々な行事も見守ることで、その成長を間近に感じることができました。子ども達の成長を、先生方や実習生の仲間と一緒に喜ぶことができ、とても嬉しく思います。１年間の実習で、保育士の大変さや責任の重さなどを感じて、自分が仕事としてやっていけるのか不安になることもありました。しかし、それ以上に子ども達の笑顔や日々の成長は私の原動力となり、子ども達にたくさんの楽しい経験や喜びを感じてほしいという想いになりました。改めて、保育士という仕事の素晴らしさを実感することができました。教育実習を通して、園の先生方、子ども達から、私が保育士となるうえでとても大切なことを学ばせてくれました。１年間、本当にありがとうございました。

# 教育実習を終えて

家政学科　４回生
西　岡　　愛

母校の中学・高等学校での３週間の教育実習によって、教師としての責任、生徒への愛情、生徒の成長に携わるやりがい、学校現場の厳しさなど、実際に教師という立場でないと感じることのできない経験をすることができました。このような経験の中で特に印象に残っている３つのことについて述べたいと思います。

１つ目は、生徒を知ることで、生徒に伝えたいこと、学ばせたいことが明確になるということです。大学での模擬授業では、生徒がいることを想定した一般的な授業を行っていました。しかし、教育実習では、生徒の実態を踏まえた授業を行うことを意識しました。例えば、運動部に所属し毎日ハードな練習を行っている生徒や、反対に保護者に学校まで送り迎えしてもらいほとんど運動していない生徒、寮生活を送り、自身で食生活を管理しなければならない生徒などです。食生活について学習していたのですが、それぞれの生徒が特に深めるべき学習内容が明確になり、新たな教材開発につながりました。家庭科という教科の特性からも、教材を意識しながら生徒を知るということは、大切なのだと感じました。

２つ目は、生徒との信頼関係を築くチャンスは自分で作らなければならないということです。初めの週は授業観察がメインだったので、休み時間や放課後などの限られた時間しか、生徒と関わる機会はありませんでした。しかし、その中での何気ない会話や行動に、信頼関係を築くチャンスはあることに気づきました。進路のこと、部活動のことなど生徒が話してくれることには積極的に耳を傾け、受け止めてあげることで、後で生徒が悩んだときには相談を受けることもできました。

３つ目は、自分の性格に合った理想の教師像を描くということです。実習中は担当の教科に限らず、様々な授業を見学させていただきました。ハツラツとした授業や穏やかな授業など、先生方の性格によって授業の雰囲気は違います。私は、自分の性格を踏まえ、どんな授業をするのが向いているか考えました。そこで、考えを自由に発言しやすいあたたかい雰囲気の授業をつくろうと意識しました。最終日に生徒から貰ったメッセージには「いつも笑顔で、見ているこっちも元気になれるような先生でした。」「たくさんの笑顔で教えてくれてありがとう。」などの嬉しい言葉をいただき、自分の理想とする授業に少しは近づけたような気がしました。

この３週間で自分の反省点、新しいことの発見など様々な体験をする事ができ、大変ではあったものの充実した実習を送ることができました。お世話になった先生方や生徒の皆さんへの感謝を忘れず、来年度から教師として生徒と共に成長していきたいと思います。

# 栄養教育実習を終えて

管理栄養士養成課程　４回生
須　田　美　咲

私は中学校で一週間、教育実習をさせていただきました。短い期間でしたが、学校での栄養教諭の役割や具体的な職務内容、教職員間の連携や生徒との関わり方などを知ることができ、とても学びの多い実習でした。その学びの中で、自身の反省と今後の課題について２つ述べたいと思います。

１つ目の反省として、栄養教諭についての理解が不足していたことです。大学での知識として栄養教諭の役割や職務を知った気でいましたが、実際に栄養教諭の先生のお話を聞いたり、働いているところを見ると私の知っていることはほんの一部なのだと感じました。特に授業においては、栄養教諭が１時間を使って食育ができる機会はとても貴重であり、TT の授業をよりよく行うためには事前の準備、打ち合わせが大切だと教えていただきました。しかし、実際の研究授業では初めて中学生に行うということもあり、今この時期に何を教えたらいいのか、どこまで教えたらいいのか分からずとても悩み、準備や打ち合わせを十分に行うことができませんでした。これは私が普段から栄養教諭として、限られた食育の授業の中で子供たちに何を伝え、どのようにして子供たちの実態に沿った内容にするのか等の考えが足りていなかったためです。このことから、いかに私が栄養教諭として行動できていなかったのか気づくことができました。今後の課題として、何事も先を考えて行動する計画性を身に付けること、また栄養教諭に必要な考え方や行動を学び、できる限り日常生活に結び付けていきたいと考えています。

２つ目の反省として、栄養教諭としても社会人としても、勉強不足であることです。教育実習の中で生徒たちや先生方と過ごす中で、生徒たちの勉強や日常生活に関する疑問にうまく答えられなかったこと、自分の考えが伝えきれなかったことがありました。栄養教諭は学校で一人しかおらず、担当学級をもつことがないため、子供たちや先生方との関わりが少ないと思います。そのような環境で食育の授業で多くのことを子供たちに伝えるためには、自校の子供たちの実態を知り、子供たちだけでなく先生方との信頼関係が必要不可欠です。そして信頼関係を築くには、広い教養を身につけておかなければならないと私は考えています。社会人に必要な一般教養をはじめとして、教員に必要な教職教養、栄養教諭に必要な専門教養、さらに自分自身や他者、社会と関わり様々な経験をすることで、ものの見方や考え方、価値観が広がるのではないかと思います。私は信頼される栄養教諭となるために、今後の課題として学ぶことに励むとともに様々な立場の人が集まる交流の場に参加していきたいと考えています。

教育実習に行く前は、一週間という短い期間の中で先生方や生徒と関わることや、研究授業を行うことに不安を感じていました。しかし、先生方の温かく丁寧なご指導、生徒の明るさや笑顔に支えられ、頑張ろう！という気持ちで実習を終えることができました。この教育実習では、教員という職業の大変さを感じましたが、それ以上に楽しさややりがいを感じました。この経験を糧に、子どもたちに様々なことを伝えられる栄養教諭になるため、努力していきます。

# 栄養教育実習を終えて

健康スポーツ栄養学科　４回生
後　藤　夏　葉

５日間という短い期間でいったい何が学べるのか、しっかりと教師という立場で子供たちと関われるのか、不安要素は多くありましたが、そのまま実習に臨みました。事前打ち合わせの時から丁寧なご指導をしてくださり、温かく見守ってくださった先生方のおかげで、不安はすぐに解消されていきました。また、栄養教諭のいない学校での実習ということもあり、栄養教諭のことを学べないのではないかと思っていましたが、校長先生、教頭先生のご配慮もあり、栄養教諭の先生お二人とお話しさせていただく機会もいただくことができ、栄養教諭についてもしっかりと学ぶことができました。

今回の実習を終えて特に強く心に残っているのは、「小学校の先生は本当に素晴らしい職業だ」ということです。しかし、小学校１年生から６年生まで、すべての学年の授業を参観させていただく中で、まだ、ひらがなやカタカナを書くことすらままならない１年生が、６年生には漢字を使いこなしている姿や、学力的なものではなく、人間性としても６年間で大きく成長する姿を実際に見ることができました。先生方の指導は１年生と６年生ではもちろん大きく違いますが、１年生と２年生の１学年の違いでも指導方法が違っていました。もちろん、大変な部分も見てきましたし、体験しましたが、先生方のその指導の仕方が児童たちを６年間でしっかりと成長させているのだと感じました。これまで、座学で教員に必要な知識などを学んではきましたが、実際全学年を見ていく中で、「この６年間の成長を支えながら見守ることができる、小学校の先生はとても素晴らしい職業だ」と思うようになり、より、教員になりたい気持ちが強くなりました。

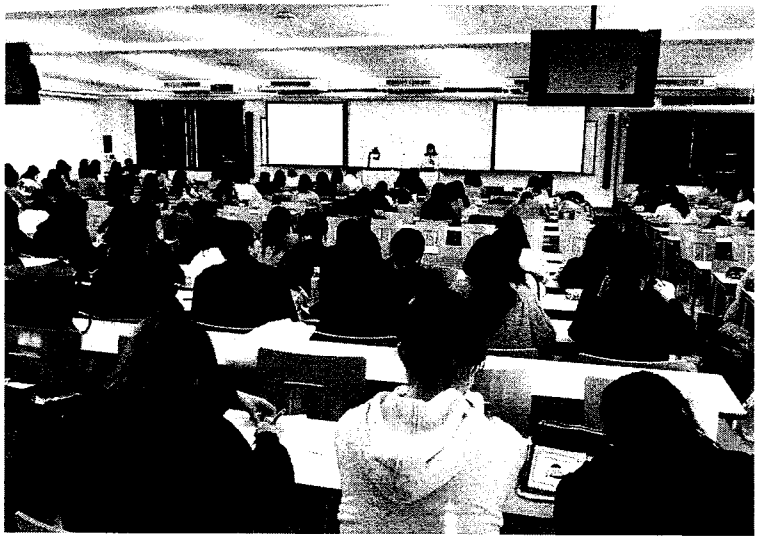
先生方のこれまでの教育のおかげで、良い子たちが多い学校であったため、担当学年は３年生でしたが、どの学年でも名前を憶えていてくれる児童がいて、どの学年の子供たちともすぐに仲良くなることができました。初めは、子供たちと仲良くなることが精いっぱいで、だめなことを注意するなどできず、ただ単に「私と小学生」という関係になってしまっていましたが、プロの先生方の指導法を見ていく中で子供たちとの関わり方を覚え、少しではありますが「教師と児童」という関係性に近づけたと思います。

研究授業の準備は時間がなく、指導教員の先生のご協力やその他の先生からの応援もあり、なんとか準備を終えることができ、授業もうまく進めることができました。プロの先生からしたら欠けている部分は多かったと思いますが、多くの先生にご高評をいただくことができました。私自身の反省点を１点あげるとしたら、もっと広く教室全体を見るべきだったと思いました。机間巡視はしっかり行えたのですが、前に立って話しているときに後ろのほうの子供たちの発言を拾ってあげられませんでした。もちろん、すべての子供たちの発言を拾っていては授業が進みません。ですが、全体の発言を聞き分け、授業を進めてく上で必要な発言をしっかりと拾ってあげられる教師にならなければならないと思いました。

実習期間中、朝は早いし、子供たちに振り回されてかなりのエネルギーを消耗し、早くも三日目に

は疲れが溜まってきましたが、疲れを吹き飛ばしてくれるのも子供たちでした。子供たちの楽しそうに勉強している姿を見ているだけで元気をもらえました。こんないい仕事は他にはないのではないかと思わせられた５日間でした。

２回生の頃から教員になるための授業を履修し、様々なことを学んできましたが、現場に出てみて初めて学ぶことが多くありました。また、栄養教諭になるうえでの課題も多く見つかりました。今回の課題をしっかりと振り返り、理想の栄養教諭になれるよう努めていきたいです。



# 養護実習を終えて

看護学科　４回生
豊　田　菜　摘

私は４回生の９月に３週間、自分の通っていた小学校で養護教諭の教育実習をさせていただきました。教育実習に行くまでは、養護教諭は学校に１人しかいない中で多くの業務を行いながら、十分に児童との関わりをもつことができるのかと疑問がありました。しかし、実際に教育実習に行って、養護教諭が１人で活動しているのではなく、学校全体がチームとり互いに先生同士が協力し合うことで「学校」が成り立っているのだということを学びました。特に教育実習中に養護教諭が１人で活動しているのではないと実感した場面は、ある児童が嘔吐をした時に対応されている場面でした。嘔吐時の対応の知識や技術を養護教諭が身につけていることはもちろんですが、周囲の先生方も嘔吐時の知識や技術を身につけておられ、嘔吐の処理をするためのエプロンやマスクなどが保健室だけではなく各教室に置いてあり、すぐにその場にいた先生が対応できるようにされていました。その背景には事前に養護教諭が職員会議などで、先生方に知識や技術を身につけてもらうために話をする時間をもらったり、回覧板を使って先生方それぞれの空いた時間に見てもらえるように工夫するなどして、自分の持つ知識や技術を共有していたのだと思います。病気やけがに限らず、学校ではいつ、どこで、何が起こるか分かりません。何かあった時に、どの先生が対応しても最善の方法が取れるように自分の持つ知識や技術を自分自身の中にだけに留めておくのではなく、共有する事はとても大切な事であると思いました。周囲の先生方に正しい知識や技術を伝えるために、まずは養護教諭として必要な知識や技術を自分自身がしっかりと身につけておくことが求められると改めて実感しました。

私は教育実習で、チームで動くことの大切さを学びました。その学びを踏まえて、今後の自分自身の課題であると感じたことがあります。それは「自ら行動を起こしていく姿勢」です。チームで動いていくには情報を自分の中で持っているだけでは意味がなく、周りからの情報を待っているばかりではいけないと思います。互いに“報告”“連絡”“相談”することが必要であり、そのためには自発的に行動することが求められていると思います。自分自身のこれまでの生活を振り返ってみると、受け身になって相手からのアクションを待ってしまっていたことが多くあります。でも養護教諭は学校にたくさんいる訳ではないので周囲の先生方に協力をしてもらうために自分から積極的にアプローチしていく必要があります。教育実習中も養護教諭の先生が自分から周りの先生方に物事の提案をされている場面を見かけたり、「○○先生！」と呼ばれ、教頭先生や担任の先生など多くの先生から相談されている場面を見かけたりしました。協力してもらうためには、まずはその人のためなら協力してあげたいと思ってもらえるような存在でならなければならないと思います。そのためには待つ姿勢ではなく、自ら行動を起こしていく姿勢が必要であると思うので、これからの社会人生活で意識して生活したいと思います。

# 観察実習レポート

教育学科　２回生
渡　辺　彩　花

## １．スクールサポーターとしての活動から得たもの

### ①児童との関わりから得たもの

児童が自分自身で課題に取り組み、自分の力で解決させることが大切なのだと思いました。「先生、これわからない」と言って、よく助けを求めてくる児童がどのクラスにも必ず一人はおり、私はその児童の支援をしましたが、私がすべて答えを言ってしまうと、児童は先生の言いなりになってしまいます。できるだけ自分の力で乗り越えられるようにヒントやアドバイスを出しながら支援をしました。時間はかかるし、他の子と遅れがありますが、先生が粘り強く接することが児童のためになるのだと実感しました。

### ②教師との関わりから得たもの

先生はいつも全体を見渡し、一人ひとりと向き合っていました。授業中では、全員に発表させている先生がいました。そのような姿勢がみられる先生の授業は活気があり、児童と先生が授業を作っているように感じました。児童をしかる場面では、児童自身を否定するのではなく、児童の行動の悪い所を改めさせるように指導していました。児童の良い所を認めるだけでなく、より児童を成長させるために飴と鞭の両方を使い分けているのがよくわかりました。

### ③学校という組織との関わりから学んだこと

音楽会と運動会と避難訓練に関わらせていただきました。音楽会と運動会では児童がスムーズに運営できるようにスケジュールを立て、他の学年の演技を見やすいように座席の位置を決めていました。学校がチーム一丸となって行事を運営していることがわかりました。1月17日の避難訓練では、当たり前ですが、緊張感を児童にも持たせるように先生が本番さながらの気持ちで臨み、先生間の人数確認でも緊張感が伝わりました。避難訓練は児童側から見れば、自分たちの訓練だと思いがちですが、学校全体の訓練なんだと思いました。

## ２．特別支援教育、学級経営、教材研究のいずれかに的を絞って貴女が小学校で学んだことを記述してください。

私は学級経営について学びました。私が最初に入ったクラスは一年生でした。入学して間もないクラスをどうまとめるのかを見ていましたが、どの先生も「もう幼稚園じゃないんだから、自分のことは自分でしなさい」「時間をみて早くしなさい」と自分ですることを大切にしていました。また、なんでもかんでも「これしなさい、あれしなさい」ではなくて、一年生が終わるまでにできてほしい姿の目標を明確に持っていらっしゃって、それに近づけるために指導をしていました。教室には「先生はおこります」という掲示物があり、「ずるをしたとき、友達にいやなことをしたとき」といったことを書いており、してはいけないことを明確にしていました。一年生の段階では、社会に出てい

く上で自立するための基礎を培う教育を行っていました。二年生に入ると、自分で大抵のことはしようとしていましたが、発表することに抵抗をしている児童が多いように感じました。その学級の発表の雰囲気をよくするために、「聞き方名人」という発表の仕方を取り入れていました。発表したい人は全員立って、先生は指名せずに児童が譲り合ったり自分から発表したりしていました。児童が発表していくと、途中で座ってしまう児童がいた時は先生が「○○さんはいいんですか？」と児童に気づかせるように言い、発表する力を育てていました。

**3．将来教師になったときこのスクールサポーターとしての経験をどう教育活動に生かしますか？**

学級担任を持ったときに、児童との接し方や、注意のしかた等学んだことを生かしたいです。児童との接し方では、児童と目線を合わせて、生半可な返事をしないようにし、全員と一日一度は話しかけるように心がけ、みんな平等に接することを目指したいです。注意をするときは、むやみやたらに叱るのではなく、何がいけなかったのかを指摘し、しないようにするためにはどうするべきなのかを教えられるようにしたいです。その子にとってどんな力が育ってほしいのかを常に考えて行動したいです。

**4．スクールサポーターの活動と学業の両立の困難点、課題、またスクールサポーターというシステムの課題について記述してください。改善点・アドバイスがあれば記述してください。**

スクールサポーターの活動と学業の両立においては、テスト期間と被ると寝不足になりがちで体調管理が大変でした。自宅から遠くの学校に配属になると、普段よりも早く起きなければならないため、かなり負担になっていました。スクールサポーターは12時までいなければならないため、大学の授業が３限にあると、スクールサポーターとして小学校に行けないのが歯がゆく思いました。そういう点もあり、西区のほうの学校は小学生の人数が多いにも関わらずスクールサポーターが少ない現象の原因のひとつになっているのではないかと思います。

**5．2、３回生は来年もスクールサポーターに応募しますか？ しませんか？ またその理由を記述してください。４回生は下級生にスクールサポーターを勧めますか？ 勧めませんか？ またその理由を記述してください。**

来年もしたいです。一年間だけでは学ぶことが少なかったです。もっと現場に行って学びたいし、たくさんの子供達と出会いたいです。来年こそは一日時間を空けて、児童が帰るまで小学校にいたいです。

**6．サポーター小学校の出来事で一番印象に残っていることを記述してください。**

児童が次の週に会っても覚えていてくれたことです。特に印象的だったのは「先生、来週晴れたら外で鬼ごっこしてな、本気で走ってよ」という約束を次の時もまた次の時も覚えていた時は驚きました。この時、曖昧な気持ちで返事はできないなと改めて感じました。

7．その他、特別支援、学級経営、スクールサポーターについて何かあれば自由に記述してください。

今年度、配置小学校にはたくさんのスクールサポーターがいたため、月ごとに担当クラスが代わりました。そのため、一つのクラスに入れるのはわずか３回ほどでした。あるクラスには板書が上手な先生や、スクールサポーターに対する無茶ぶりは多いけれど学級経営や授業づくりはピカイチな先生、普段は怖いけれど児童思いの先生など、勉強になる先生がたくさんいました。そういった先生のもとでは、もっと長く勉強させていただきたかったなと思いました。今年度のスクールサポーターを通して、先生になるための基礎の基礎を学びました。次年度は一日学校に滞在して、今年学んだことを少しずつ実践しながらスキルアップに努めたいです。

# 観察実習レポート

教育学科　３回生
醍　醐　和樂奈

## １．スクールサポーターとしての活動から得たもの

### ①児童との関わりから得たもの

教育実習のため、三ヶ月ぶりに参加した日があり、子ども達に忘れられていると思っていたら、名前や会話した内容まで覚えてくれていて、とても嬉しかった出来事がありました。この経験から、これまでの関わりを子ども達はしっかりと覚えており、だからこそ子どもとの関わりを大切にし、より信頼関係を築いていくことが大切であると感じました。

### ②教師との関わりから得たもの

なかよし学級のサポーターをさせていただいており、ここでは一人一人の特徴や指導法などを理解する必要がありました。先生方のご指導から、日々の些細なことも真剣に捉えて常に情報を共有すること、保護者の方との関わりの大切さを学びました。また、「苦手で出来ないこと」と単なる「甘え」の違いを素早く察知してご指導しておられたので、今後も学んでいきたい課題となりました。

### ③学校という組織との関わりから学んだこと

学校と地域の方々との関わりの大切さを学びました。地域の方による防犯対策の講話が行なわれたり、学校にゴミ収集の方々など、地域の方との関わりによって教育が行われることが何度かあり、子ども達だけでなく地域の方々、さらに他の先生方との関わりも大切であると強く感じました。

## ２．特別支援教育、学級経営、教材研究のいずれかに的を絞って貴女が小学校で学んだことを記述してください。

特別支援教育について

私は、なかよし学級でのサポーターを昨年度からさせていただいており、和やかで優しい雰囲気で、安心感のある環境のもとで日々勉学に励む子ども達の様子を間近で見てきました。そこでは、先生方の「自分一人で出来ることが、１つでも多くなってほしい」という先生方の思いから、明瞭で興味関心の深い学習が行われています。それは、一人一人の発達段階や理解度、特徴にあった学習です。苦手なことでも日々の積み重ねでゆっくり行うことで、出来るようになっていく姿、成長を間近で観れたことはかけがえのないものだと感じています。しかし、個別でそれぞれが課題を克服していくだけでなく、なかよし学級での交流も頻繁に行われており、子ども達は学年問わず仲良く接しています。なかよし学級内だけでなく、クラスのお友達との学習や遊び（交流学級）での関わりも大切にしていました。子ども達一人一人の理解をし、さらに子ども達一人一人の自立を日々間近で教育なさる先生方と、一生懸命頑張る子ども達の成長は、素晴らしいものであると感じ、指導を行っていく上での子ども理解の大切さを、特別支援学級で学びました。

**3．将来教師になったときこのスクールサポーターとしての経験をどう教育活動に生かしますか？**

子ども理解を大切にして、子ども達の発達段階にあった指導を行いたいです。スクールサポーターでは、日々の学習指導に加え、六年生のスキーキャンプの引率としても参加させて頂きました。学校現場での先生方の子どもとの向き合い方、指導の仕方など多くのことを学びました。その中で子ども理解というものは必要不可欠であると感じ、子ども理解を行うことで保護者の方や子どもとの信頼関係が築けると考えたため、日々どんなに追われていても、子どもとの関わりを大切にして、子ども理解のある教育活動を行っていきたいです。さらに、学級経営を行う際は、子ども達一人一人が主役になれる、子ども達が意見を伝えられる環境に徹底したいです。

**4．スクールサポーターの活動と学業の両立の困難点、課題、またスクールサポーターというシステムの課題について記述してください。改善点・アドバイスがあれば記述してください。**

週一回の活動であり、大変続けやすい環境であったと感じます。しかし、私の場合は小学校までの距離が遠いため、大学の授業よりも早い時間に家を出る必要があるので、その点が少し困難であるように感じました。しかし、それも週一回の活動であるからこそ続けてこられたのだとも感じます。教育実習は、ある一定の期間だけですが、スクールサポーターは最大３年間通うことができ、週一回の活動であるため、子どもの一週間の成長を感じることができました。さらに、新たにボランティア活動を見つけるのが私は難しかったので、学校の授業の一環として行かせてもらったことから、三回生も続けていくことができたことは大変良かったと思います。

**5．2、３回生は来年もスクールサポーターに応募しますか？ しませんか？ またその理由を記述してください。４回生は下級生にスクールサポーターを勧めますか？ 勧めませんか？ またその理由を記述してください。**

参加を希望致します。小学校での実践的な学びはスクールサポーターが初めてだったので、大変思い入れのある場所となりました。また、なかよし学級の児童と関わることの楽しさ、指導することの良さを感じているので、希望致します。私は、下級生にも勧めたいです。理由は、長くに渡り学生生活の中で子どもたちと関わることができるからです。３年間スクールサポーターに参加した場合、子ども達が進級していく成長を間近で見ることができるからです。他にも、先生方のご指導を定期的に観察することができ、学生生活の間で場面指導や現場での対応力が身につくと考えるからです。

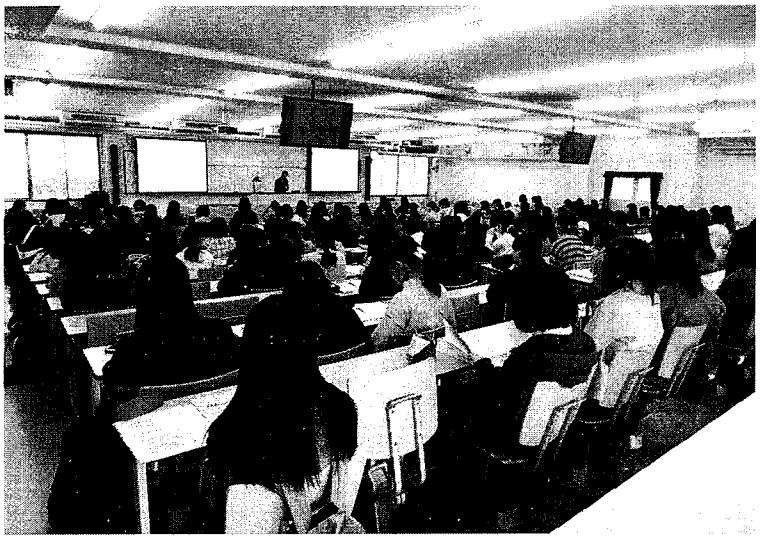
**6．サポーター小学校の出来事で一番印象に残っていることを記述してください。**

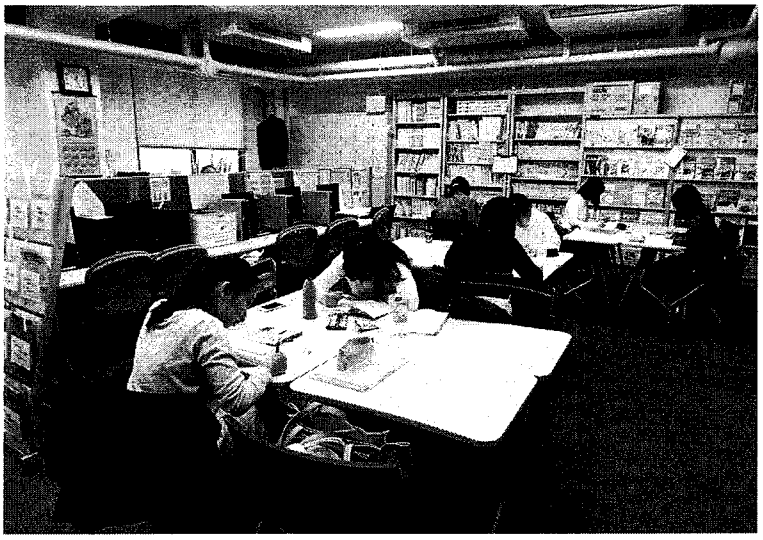
今学期行かせていただいた中で印象に残っているのは、なかよし学級のある児童との関わりです。その児童とは昨年度から関わりはありましたが、話しかけてもあまり応答がないので、「話しかけない方がいいのかな」と思い悩んだことがありました。しかし、それでも積極的に関わってみようと試み、よく観察した上で、長期に渡り、話しかけ続けました。すると、「私と一緒に給食を食べたい」という意思を伝えてくれたり、描いた絵を見せてくれたりとその児童から歩み寄ってくれるように

なりました。その時、私は子どもとの関わりの継続性（例えこちら側からの一方通行でも）が大切であると、この経験を通じて感じました。今後もその児童との交流を深め、一人でも多くの児童と打ち解けることができたらいいなと感じました。

7．その他、特別支援、学級経営、スクールサポーターについて何かあれば自由に記述してください。

特になし





# 観察実習レポート

教育学科　４回生
金　納　美　海

## １．スクールサポーターとしての活動から得たもの

### ①児童との関わりから得たもの

「子どもと共に教師も学ぶ」ことの大切さを教育実習でも学んできましたが、スクサポにおいても教頭先生から「正解かどうかは子どもが示してくれます」といった言葉を頂きました。担任として子ども達にどうアプローチするべきか悩むことろであると思いますが、良い意味で子どもに頼り、子どもに教えてもらえば良いのではないかと活動をして思えるようになりました。今は担任ではなく、サポーターとして授業に入っているだけですので、その感覚は大きく違うと思いますが、自分が担任を持つようになってからに生かせることは多くあると３年間の活動を通して強く実感しました。

### ②教師との関わりから得たもの

配置小学校の特徴とすれば、少人数（全学年１クラス）であるため先生方同士の距離もかなり近いということが一つ上げられると思います。そのため、職員室では情報交換や協力体制の話し合いをされている姿をよく見ます。また、スクサポ生に支援活動内容等を連絡して下さることも多いです。教職員同士でやり取りをすることで、お互いに助け合える関係である大切さは前任の教頭先生もよくおっしゃっていました。その伝統的な雰囲気が今の配置小学校にはあるので、見習うべきだと思っています。

### ③学校という組織との関わりから学んだこと

今回３年目にして初めて配置小学校の運動会に参加させていただきました。スクサポ生ですので、特に運営に関する役割は無いですが、教育実習校（母校）とはまた違った運動会を経験しておくと今後のプラスになるのではないかという思いからの参加でした。結果的には人員不足もあって騎馬戦等の補助等をさせていただきました。学校という組織で「チーム学校」と言われていますが、その日の後片付けには多くの保護者・地域の方が協力している様子を見てきました。日頃、教職員の先生方が努力しておられる結果が「チーム」で取り組んで行く素晴らしい力に繋がっていることを学びました。

## ２．特別支援教育、学級経営、教材研究のいずれかに的を絞って貴女が小学校で学んだことを記述してください。

＜特別支援教育＞

昨年４月から配置小学校の特別支援教室・なかよしには、元々特別支援学校で勤務されていた先生（N先生）が赴任されています。特に５年生の図工の時間で一緒に支援に入らせていただく機会が多くありました。その５年生には特別支援学級在籍児童が１名と普通学級に在籍しているが特に

支援が必要な児童が１名（Ｏさん）います。Ｏさんとは３年目になるため、週１回の活動が基本とはいえ、比較的多く関わってきたという思いがあります。しかし、特に支援が必要な児童への声掛けは長く関わっていても難しいもので、どう声を掛けるべきか、どこまで支援するべきか、迷い悩むことはありました。そんな時、Ｎ先生は「あの後は○○のようにしたよ。そうしたら△△のようになったよ。」と私が困っていた様子を見ていて、その後の対応を教えて下さる場面がありました。このような積み重ねが支援のスキルアップに繋がっているのではないかと思います。

**３．将来教師になったときこのスクールサポーターとしての経験をどう教育活動に生かしますか？**

一番生かすべきであると考えているのは「Ｔ２の役割」です。スクールサポーターは４回生にもなると「Ｔ２」にも近い役割があると思います。Ｔ１である担任の先生とどう協力し、授業を作るか、私はこれを考えながら日々活動を続けていました。「もし自分がＴ１の立場だったら、今何を支援してほしいか」、これを考えることで子ども達により質の高い支援ができるようになったのではないかと自分自身でふりかえっています。春から教壇に立つにあたり、必ずしもＴ２の先生が付くとは限りませんが、もしＴ２の先生がいる場合にどう連携するべきか、確実に協力体制を整えておきたいと思うようになりました。実際に教育実習ではＴ２授業を展開させていただき、その良さと難しさを学んだつもりです。経験を最大限に生かした授業が展開できるよう検討していく必要があると思います。

**４．スクールサポーターの活動と学業の両立の困難点、課題、またスクールサポーターというシステムの課題について記述してください。改善点・アドバイスがあれば記述してください。**

学業との両立に関する困難点は特に無いように思います。大学の授業予定等はほぼ決まっているため、もし活動が困難な場合が発生しそうであれば、事前に連絡して日程調整をするだけだと思います。３年間活動をしていて非常に困難な状況に陥ることはありませでした。それは活動が難しくなる時期（教育実習、教員採用試験、その他授業や課外活動等）が分かれば早い段階で学校側に連絡を逐一するようにしていたからだと思います。その積み重ねが学校側との信頼関係に繋がり、より良い活動に繋がっていくのではないかと考えています。

システムの課題については、教育委員会に提出した書類（活動記録用紙）の返却時期が上げられると思います。その日のふりかえりは覚えているうちにしておきたいので、教頭先生等からいただく指導助言の言葉はすぐに読みたい、聞きたいものです。もう少し検討してほしいと思います。

**５．２、３回生は来年もスクールサポーターに応募しますか？しませんか？またその理由を記述してください。４回生は下級生にスクールサポーターを勧めますか？勧めませんか？またその理由を記述してください。**

下級生にはぜひ勧めておきたいと考えています。その一番の理由としては、自分の学びが生かせる現場を確保できるからです。やはり大学の座学だけでは身に付けられるスキルは限られているため、自分のスキルアップには限界があります。しかし実際に子どもを前にすることで、その機会が

得られ、尚且つ大学での学びをすぐに試すことができます。ここで失敗をしておくことで、更に深い学びとなり、自分の貴重な経験値となって教育実習、教員採用試験そして学級担任と繋がっていくと思います。実際に教育実習では、スクールサポーター先での学びを取り入れて実習をしてみたり、教員採用試験では、教育実習での学びだけではなくもう一つの学びとして話をしたりも出来ました。自分の引き出しが増えたという事実は大きく、守備範囲が広まったのは確かでした。

**6．サポーター小学校の出来事で一番印象に残っていることを記述してください。**

現在中学生になった双子の兄妹との関わりです。私が２回生で活動開始当初から支援させていただく機会が最も多かった児童です。彼らは何も分からない私に「子どもと共に学ぶ、正解かどうかは子どもが教えてくれる」ということの大切さを示してくれました。どうしても感情が表に出てしまったり、自分をコントロールできなくなってしまったりといったところが見られる兄妹だったのですが、できる力を持っていることは知っていたので、私も一緒に頑張ろうと思っていたことを良く覚えています。その結果、私が街で消防団活動をしていた際には遠くから見つけて声を掛けに来てくれたり、登校途中に会えば元気よく挨拶をしてくれたりします。このような経験から特に支援が必要な児童に対して、ベストな支援ができるようになりたいという思いが芽生え、もう少し特別支援に関する勉強したいと思うようになりました。大学では免許が取れないため、選択で特別支援に関する授業を追加で取ったり、新聞記事と読んだり、先生に直接話を聞いたりといったことを積み重ねるようになりました。

**7．その他、特別支援、学級経営、スクールサポーターについて何かあれば自由に記述してください。**

スクサポでの活動は大学の学びを更に深めるために、自分には必要不可欠だったとふりかえっています。この３年間の学びを春からの現場存分に生かせるようでありたいと思っています。